

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344

「作業療法活動の現在と今後について」

作業療法課 課長 江戸 晶子

今回は、最近の作業療法(以下 OT)を取り巻く状況と、今、そしてこれからの当院の OT 活動について少しお話ししたいと思います。

精神科 OT は、診療報酬化された昭和 49 年からの診療報酬規定『1 日の作業療法士(以下 OTR)が概ね 25 人を 1 単位として 1 日につき 2 時間を標準に 2 単位(開始当初は 3 単位)』により、多くの病院で大集団のプログラムが行われてきたという経緯があります。当院も例外ではなく、古くから行われていた屋外作業、室内作業、三愛学園、OT センターでのグループ活動そして病棟レクグループ活動全てがまさにそうでした。しかし、2004 年精神保健医療福祉の改革ビジョンにより、入院医療中心から地域生活中心という基本方針が示され、早期退院や長期入院患者の退院促進、高齢化対策など多様なニーズの対応が求められるようになり、現在では個別対応の必要性など現状の見直しが図られています。これまでの当院の OT 活動も、「病状の安定」「心身の健康の維持改善」「人と上手に付き合うこと」「主体的に生活すること」「基本的な生活技能を身につけること」「地域での良い生活を送ること」など患者様の目標に応じて関わりを工夫していましたが、集団主体であって個々の対応には限界もありました。そこで最近では、各病棟担当 OTR が主体となり、既存の枠に限らず実施場所、実施時間など使える資源を有効に活用することで、個別・小集団活動を随時実施しています。そのために多職種との情報交換の機会を持つようにしており、病棟を軸とした多職種協業・連携のチーム医療の大切さを感じています。活動内容もそれぞれのニーズに応じて多岐に及び、手芸、楽器演奏、PC 操作、スポーツ活動、調理活動、散歩、買い物等の外出活動、そして関節拘縮予防の可動域訓練、起居動作訓練、歩行訓練、摂食・嚥下活動を維持改善するための姿勢矯正・ポジショニングなども行っています。しかしまだ表出されていないニーズもたくさんあり、いかに的確にニーズを見つけ、それをどういった活動内容として反映していくかが課題で、難しさを感じているところです。

OT 活動では個別対応が必要な対象者の方は入院患者様の 2 割程度といわれており、当院でもおおよそ

てはまります。急性期通過直後で心理的、身体的耐久性の低下している患者様、対人刺激に反応しやすい患者様、退院・単身生活や復職の具体的準備に入っている患者様、若年の患者様、加えて身体的機能低下により訓練が必要な患者様など、それぞれの治療段階や目指す生活、ニーズに合わせて関わるのが今後の課題です。

当院は秋に新たな OT 施設が開設する予定という好機を迎えています。調理室、音楽室、PC 室、陶芸室など専用の設備に加え、広い活動室、多目的に使えるホールを備えた充実した構造となっており、その機能を存分に発揮するためにも、患者様はもとよりスタッフにも開かれた OT を目指して、その運用に今から期待と責任を感じています。これからの OT 活動ですが、集団活動、個別活動問わず先に述べたように病棟機能に合わせてチーム医療を推進する中で、しっかりと情報を発信していくことが必要と考えています。今まで不十分であった患者様やご家族、そして他職種に向けて OT の役割や機能、プログラムの目的や治療効果など「OT は何が出来るのか?」「OT にはどんな効果があるのか?」相互理解のもと、協力できる体制を整えていきたいと思っています。OT の目標とするところは、患者様個々が「その人にとって意味のある時間が過ごせるようになること」だと考えています。患者様に寄り添い、その治療をしっかりと支えられる専門職であるよう、今後とも取り組んでいきたいと思っています。





むし歯予防について

三船病院 歯科医師 岩田 修一

むし歯になるためには、むし歯菌の住み家となる歯の汚れ(プラーク)が必要です。プラークは粘着質なかたまりで、糖を原料としてできています。プラークができると、その中にたくさんの細菌が住み着きます。もちろんむし歯菌もいます。プラークの中に住み着いたむし歯菌は、糖をエサにして酸を産生します。その酸によって歯が溶ける現象がむし歯です。人間は生物ですので、口の中を無菌にすることはできないと思います。しかし、むし歯菌の住み家の元となり、むし歯菌のエサとなる糖を口の中に入れないことは可能です。ここでいう糖とは、砂糖のことだけでなく炭水化物(白米、小麦粉など)に含まれる糖質も含まれます。これらを摂取しない糖質制限食であれば、むし歯の原因となる糖が口の中に無いので、むし歯にはなりません。歯磨きをするのに関係なく、完全なむし歯予防ができます。

糖質を食べる程度により、むし歯の出来やすさは決まると思います。全く食べなければ、むし歯はできません

し、たくさん食べれば非常にできやすくなります。糖質を食べてのむし歯予防を考えたときに、重要なのが歯磨きです。歯磨きで口の中のプラークや糖質を完全に除去できれば、むし歯にはなりません。その際の歯磨き粉の役割は補助的なものに過ぎず、歯ブラシの毛先でプラークを歯から落とす事が大事なのです。歯磨きをしているけどむし歯になるとお悩みの方は、この点がうまくいっていないことが多いです。歯のプラークが付いている部位に歯ブラシの毛先をしっかりと当てて落としてください。プラークが無くなれば、むし歯にはなりません。

むし歯になるのは、糖質の摂取量と歯磨きの達成具合のバランスが崩れたときです。歯磨きが適当でも糖質の摂取量が少なければ、むし歯予防ができますし、糖質の摂取量が多くても完全な歯磨きができれば、これまたむし歯予防ができます。どちらでむし歯予防を目指すかはヒトそれぞれだと思います。ぜひ、あなたにあったやり方でむし歯を予防してください。むし歯は必ず防げます。

三船病院医師からのメッセージ・・・



「暑い季節に気をつけたいこと」

三船病院 医師 横村 真

これから気温が上がり、暑くなります。そういう季節に気をつけたいことの 하나가食中毒です。食中毒とは、有毒な微生物や化学物質等の毒素を含む飲食物を人が口から摂取した結果として起こる疾病の総称で、原因により細菌性、ウイルス性、化学性、自然毒、寄生虫性などがあります。そのうち、暑い季節に特に注意が必要なのは細菌性のものです。

細菌性ではその原因病原体によってタイプが異なり、感染型食中毒を起こすものと、毒素型食中毒を起こすものがあります。これからの細菌は、20℃前後で活発に増殖し始め、35℃～40℃になると増殖のスピードが上がります。また、湿度が高いと増殖しやすいので、夏場に食中毒が多くなります。

細菌による食中毒を予防するには、3つのポイントがあります。

1. 細菌をつけない
2. 細菌を増やさない
3. 細菌をやっつける

「つけない」は、食中毒の原因となる菌を食品につけないということです。菌を食品につけないためには、洗うことが重要です。調理する前の手洗いでだけでなく、生の肉や魚を扱ったまな板や包丁はその都度きれいに洗って、野菜や果物に菌をつけないようにする等の注意が必要です。

「増やさない」は、上記のように20℃以上になると細菌が活発に増殖するので、食品を低温で保存することが大切です。

「やっつける」は、食品に火を通すようにすることです。ほとんどの細菌やウイルスは、加熱することで死滅します。肉や魚は、中心までしっかり火を通すようにしましょう。また、まな板や包丁も洗った後に熱湯をかけて消毒しておくことも効果的です。

これからの気温が上がる季節、体調に気をつけて過ごしましょう。

三愛会 トピックス

★第35回 家族教室

今回のテーマは「精神科の病気と障害理解について」ということで、三船病院の竹本貴昭医師を講師に招き、ご家族向けの勉強会を行いました。治療期に合わせた本人への対応や、症状によって生活にどうい支障が出てしまうのかなど、とても勉強になるお話でした。当日は31名もの参加があり、講師から「病気の発症と育児に関係はない」という話では涙を浮かべるご家族もいらっしゃいました。本人のためにもご家族の心が穏やかであることが大切で、本人のことだけでなく、ご家族も自身の人生を楽しみ余裕を持つことが大切だと先生から教えていただきました。



★三船病院 家族会

5月21日に三船病院家族会を開催しました。今年の演芸会では、ゲストに“ひだまりプラス”の皆様をお招きしました。CMでお馴染みの曲や童謡や洋楽などの演奏があり、若い方から年配の方まで皆様が金管五重奏の音色にうっとりされていました。作業療法課によるクイズや踊り、職員・患者様参加の劇もたいへん好評でとても盛り上がりました。

お天気に恵まれ来場者も多く、バザーや昼食を通してご家族とのひとときを皆様たのしんでいらっしゃいました。



三船病院 委員会活動紹介

衛生委員会

衛生管理者 看護副部長 三浦 幸子

労働安全衛生法では、常時職員が 50 人以上の場合には衛生委員会を設置するように義務づけられています。活動内容としては、定期的な職員健康診断を行い、診断結果への対応、健康診断の管理、放射線業務に関わる放射線障害の検査と対応・職員環境の調査・改善、職場巡視・労働災害事故の把握・対策などを行っています。平成 26 年 6 月 25 日に交付された労働安全衛生法の一部を改正する法律により、職員に対してストレスチェックと面接指導の実施等を行う制度ができました。三

船病院には、患者様の治療に関わる多くの職種職員がおり、今年度も職員のストレスチェックを行います。職員自身のストレスへの気付きを促すとともに、職員がメンタルヘルス不調とならないように産業医と面接指導が受けられるように繋げていきます。今後も職員の健康管理、職場の安全面、衛生面の検討を行い、職員自身が心穏やかな状態で勤務し、患者様によりよい医療が提供できるよう働きかけていきたいと思ひます。

《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クニカハス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第2金曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)



【介護老人保健施設 福寿荘】



「事故防止委員会」

介護福祉士 大久保 智之

当施設では、利用者様の入所生活を安全に、そして安心して生活していただくために事故防止委員会を設置しています。委員会は、医師、看護師、作業療法士、相談員、管理栄養士、介護福祉士で構成されており、活動内容として、一人ひとりの利用者様に対してどのようなリスクがあるかを各職種全体で考え、その方にあつた対応策を行っています。

利用者様の多くは老化による筋力、視力低下などの身体機能低下や、また疾病により身体的障害を抱えているため様々な事故につながる危険性があります。

施設内で利用者様が生活していくなかの事故として、転倒転落事故、誤嚥事故、異食事故など様々ありますが、転倒転落事故が最も多い傾向にあります。転倒転落事故は、その後の利用者様の心身面だけではなく、生活動作にも大きな影響を与える危険性がありますので、朝、昼、夜間の時間別、居室やトイレ、廊下などの場所別、その方の生活状況から危険を予測して対策を実施しています。その対策例として、その方に合ったベッドの高さの調整、夜間照明の確保、ベッド柵の使用、車椅子のブレーキの徹底などがあります。また、事故が発生してしまった場合、なぜ事故が起きてしまったのかの原因や問題点、改善点、今後の対策を話し合い再び同じような事故が起らないよう努めています。

これまで行ってきて事故は徐々に減ってきていますので、今後は事故件数0を目指していきたいと思えます。



【三愛会コミュニティセンター】

「地域活動支援センターはなぞのの紹介と今年度の抱負」

精神保健福祉士 船井 未央

地域活動支援センターはなぞのは、地域で暮らす精神障害のある方に向けて、活動の場やいこいの場の提供、生活の中で困っていることの相談の場の提供などを行っています。現在、県内外合わせて137名の方が利用登録をされています。毎日午前8時～午後5時15分まで開所しており(祝日は閉所)、毎日通ってこられる方、活動に参加される方、職員と定期的に面接相談される方、受診や作業所の帰りに立ち寄ってくださる方、お電話で相談される方など、それぞれの生活に合わせて自由に利用していただいています。

現在日中の利用者数は平均 13 人前後の少ない利用となっています。しかし利用されている方からの居場所や活動に対する希望はあり利用者の増加を目指して、今年度も季節を感じることでできる活動、定期的に行っている活動などメンバー皆様の一人一人の生活に対応できるよう取り組んでいます。

はなぞのでは現在、精神保健福祉士 3 名の職員が配置されています。利用されるメンバーの皆様が来て心安らぐ場所になるよう、その人らしい暮らしが送れるように『寄り所』となり、ともに歩いていけるような支援を提供させていただけたらと思います。

《三船病院からのお知らせ》

【行事予定】

○三船病院夏祭り

日時: 8月5日(土)

場所: 三船病院運動場



恒例の花火やバザー、盆踊りなど、豪華なゲスト出演もごさいます。ぜひ皆様お越し下さい。

《編集後記》

初夏のさわやかな風がなんと嬉しい季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。1面でもふれました通り、三船病院で入院されている方々の治療期は皆様違っており、取り巻く環境や状況、目指す目標や望む生活もその人それぞれのもので、一律ではなく、皆様との話し合いを通してその人その人に応じたかわりを心掛け、少しでも望む生活や目標に近づいていけるよう一緒に考えていきたいと思っています。

(三船病院相談室 P SW)